

## 第6回 IODP 部会・執行部会 議事録

日時：2005年12月5日 13:30～17:00

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 小会議室

出席者（敬称略）

部会長：鈴木 德行（北海道大学大学院）

部員：阿波根 直一（北海道大学大学院）

佐柳 敬造（東海大学）

木戸 ゆかり（海洋研究開発機構）

石橋 純一郎（九州大学）

白井 正明（東京大学）

オブザーバー（敬称略）

川村 義久（海洋研究開発機構）〔途中より参加〕

笹山 岳大（海洋研究開発機構）

杉山 真人（海洋研究開発機構）

欠席者（敬称略）

部員：巽 好幸（JAMSTEC）

荒井 晃作（産業技術総合研究所）

山本 啓之（JAMSTEC）

佐藤 時幸（秋田大学）

山田 泰広（京都大学）

海野 進（静岡大学）

事務局（AESTO）：山川稔・小野愛実

議事次第

1. 開会の辞
2. 部会長の挨拶
3. 資料確認
4. 検討事項

IODP 国内科学計画委員会提言の概要について(事務局：資料 6-1)

法人化準備状況について(鈴木部会長,事務局：資料 6-2)

来年度計画策定に向けて(鈴木部会長,阿波根,事務局)

プロポーザル醸成のための国際ワークショップ企画等

研究支援関連

## 乗船研究関連

MSP New Jersey Margin expedition の研究者募集開始について(配布資料,阿波根：資料 6-3)

乗船研究者の公募・選出・決定等の文書化(事務局)

2005 / 2006 予定のポストクルーズ会議等(配布資料,事務局：6-4)

## 普及・広報活動

E&O Task force meeting 報告と今後の課題(木戸：資料 6-5)

乗船研究者の速報〔航海記など〕の提出〔定型化〕について(事務局)

研究成果の発信・公開方法について

J-DESC 予算執行状況(事務局,資料配布：資料 6-6)

## その他

\* PMO として IODP 公式会議へ参加する場合の旅費扱いについて、  
SAS パネル委員に準拠してはどうか？

\* PMO 会議メモ(阿波根,資料配布：資料 6-7)

\* SAS 関連(事務局,阿波根)

委員ローテーションスケジュール(資料配布：資料 6-8)

パネル委員用メーリングリスト(資料配布：資料 6-9)

\* J-DESC 新パンフレットについて(事務局：資料 6-10)

\* J-DESC ニュースレターについて(事務局：資料 6-11)

\* 要請事項(事務局：資料 6-12)

## 〔配布資料〕

資料 6-1 . IODP 国内研究推進に関する提言（案）

資料 6-2 . J-DESC 法人化資料

資料 6-3 . MSP New Jersey Margin expedition の乗船研究者募集開始について

資料 6-4 . 2005 / 2006 年予定のポストクルーズ会議等

資料 6-5 . E&O Task Force Meeting

資料 6-6 . J-DESC 予算執行状況

資料 6-7 . PMO 会議メモ

資料 6-8 . 国際パネルローテーション表

資料 6-9 . パネル委員用メーリングリスト

資料 6-10 . J-DESC 新パンフレットについて

資料 6-11 . J-DESC ニュースレター（案）

資料 6-12 . 要請事項

## 議事内容

### 1. IODP 国内科学計画委員会から J-DESC への IODP 国内研究推進に関する提言について

- ・事務局から資料 6-1 に基づき、国内科学計画委員会から J-DESC への提言(案)の位置づけ、及びその内容について説明がなされた。

J-DESC としては提言を正式に受領後、具体的に対応することとした。

#### 【議論】

J-DESC への提言(案)全般について

- ・普及広報活動に教育を加えることの提言があった。
- ・国内科学計画委員会による J-DESC への提言については、国内科学計画委員会が中立的見地から、JAMSTEC への要望と J-DESC への提言という形でまとめようとしているものであり、両者のバランスは重要である。
- ・具体的な要望・提言が示されることにより、検討し易くなったものとする。
- ・J-DESC と同委員会の役割・位置づけについては、今後より明確化されるであろう。

掘削提案の活性化について

- ・国内からの掘削提案数が伸び悩んでいることに関して、原因の追求が必要である受け止め、専門部会で集中して検討・対策を講じる必要がある(別途、執行部にタスクチームを設置して検討をすすめる等)

ミッションチームの作成について

- ・プロポーネントをサポートする体制づくりが必要。
- ・従来の掘削提案の育成・審査(ランキング)システムが現行の IODP になじまない(システムが硬直で、新規分野の参入が困難)とする意見もある。

教育・普及・広報について

- ・所属機関によっては、IODP や J-DESC の活動に理解が小さい場合もあり、IODP の普及・広報活動に参加した講師(大学スタッフ、大学院生等)の所属長宛にサンクスレターなどを出すのが良いのではないかと。

サンクスレターについては、次回執行部会にて詳細を検討することとした。

### 2. J-DESC 法人化について

鈴木部会長から法人化準備状況について資料 6-2 に基づき、説明がなされた。

#### 【報告事項】

- ・法人化については、法人化検討 WG (徳山法人化特任部員・鈴木 IODP 部会長・浦辺陸上掘削部会長) が、NPO 法人の【技術ネットワーク】の志村氏と具体的な手続き等について検討をすすめている。

- ・法人化のメリットとして、長期計画(資金計画)の策定が可能，収益を伴う事業が可能，予算の繰越が可能などがある。
- ・法人化する可能性については、MEXT へも打診している。

#### 【検討事項】

- ・法人の主たる事務所や役職員の決定、その他の必要事項について、次のステップである「AESTO 事務局との打合せ」(実務上の問題点の洗い出しと対応策の検討)以降に検討していくこととした

#### 3. 来年度計画策定に向けて

阿波根補佐より、J-DESC の活動が対外的にもより認知されるよう、来年度計画策定に向けてアイデアや問題点を洗い出す必要があるとの議題提起があった。来年 2 月の執行部会を目処に、案・意見を随時募集することとする。

#### 【議論】

国際ワークショップ企画・開催(日韓合同日本海掘削シンポジウム, アジア諸国でのタウンミーティングなど)等について

- ・国際ワークショップを活用して、掘削提案の活性化に J-DESC として積極的に支援できる体制(人的・予算的)を作ることが必要である。
- ・初回は、テーマをあまり絞らず、アジアの関連研究者と自由に意見交換できる会合を持つことも重要ではないか。ただし、顔合わせだけで終わらないようにフォローする必要がある。

AOGS などを検討に入れ、3 月末までに具体化させることとなった。

#### 4. 乗船研究関連について

MSP (New Jersey Margin expedition) の乗船研究者募集開始について  
資料 6-3 に基づき、阿波根部会長補佐から説明がなされた。

#### 【説明事項】

- ・乗船者募集締め切りが 1/17 から 2/1 に変更
- ・応募は 12 月開始
- ・スケジュールが流動的なので大幅に変更される可能性もある

#### 【検討事項】

乗船研究者の公募・選出・決定等の文書化について

- ・次回執行部会までに事務局と阿波根部会長補佐でドラフトを作成する  
ポストクルーズ会議について  
資料 6-4 に基づき、事務局から説明がなされた。

- ・CDEX 笹山氏より、「JOIDES Resolution 号」を改造したノンライザー船が 2007 年 8 月に完成し、同年 11 月には南半球でサンプリングが行われる予定であること、「ちきゅう」も同年 11 月には南海トラフ(熊野灘)でサンプリングを行う予定であることが報告された。(京都 SPC にて既報告)

## 5. 普及・広報活動

E&O Task Force Meeting 報告(木戸部員)

資料 6-5 に基づき、木戸部員から 11 月に八戸で開催された E&O Task Force について参加報告がなされた。

### 【報告事項】

- ・ IODP-MI の HP は情報満載であるので、ぜひ参考にして下さい。
- ・ IODP-MI では、JR がない期間は、プロモーションビデオを作成して流す予定。
- ・ プレスリリースについて、現在は航海 2 週間前だが、図版等については製作を早めて乗船研究者の募集にも使用できるようにしたいとの意見が出されたこと
- ・ タヒチ航海のリーフレットが好評であるという話がでたが、今後の航海においてリーフレットを作成する場合に「IODP 計画のもとにやっている」という説明を加えると良い(国際的な広報資料として役立つ)、という意見が出された。

乗船研究者の速報(航海記)の提出

研究成果の発信・公表について

事務局より、表記の件に関して議題提起があり、まずは Web ベースで航海速報や成果物リスト(講演発表・印刷物)を公開する方向で検討していくこととなった。

## 6. J-DESC 予算執行状況について

- ・ 事務局より、資料 6-6 に基づいて今年度予算の執行状況の説明がなされた。

### 【議論】

- ・ 来年度は今年度の予算執行状況を元に、予算枠(項目)の見直しが必要である。
- ・ 旅費支給について、国内での宿泊を伴う IODP 関係の公式行事に、部会長、部会長補佐等が代表して出席する場合には、SAS の委員会メンバーと同じ条件の出張費を IODP 活動経費等より支給することとする。

### 【検討事項】

- ・ 国外での PMO としての活動旅費については現在 MEXT と相談しており、今後あらためて検討することとなった。
- ・ CDEX 川村氏より、IODP-MI が主催する Management Forum や E&O の旅費については、IODP-MI が支給することになっているとの報告があった。  
予算執行予定の事務局からの提案について  
事務局より、資料 6-6 別添に基づいて J-DESC の web ページの改訂に関する提案が示された。
- ・ J-DESC の HP にヒット数が分かるようにしたほうが良いとする意見があった。
- ・ J-DESC の年間活動が分かるコンテンツの必要性が示された。
- ・ J-DESC の HP は大切な情報発信源であるため、HP の環境整備に予算を当てるのは妥当であろう。
- ・ しかし、執行予定額には検討の余地がある(100 万円程度の予算内)
- ・ 外部に委託するのではなく、予算を提示して内部作成(J-DESC 会員機関に作成依頼)にしてはどうか？

ビジネスライクに批判がしにくのではという懸念があり、外部委託の方向で検討することとし

た。

本件については、鈴木部会長，事務局が委託先と予算の検討を進めることとする。

## 7. その他

J-DESC の新パンフレットに関して

事務局より、資料 6-10 に基づき、新パンフレットの説明がなされた。

日本語版のみとし、4 種類の案から選択することを想定している。

### 【議論】

- ・ ICDP の存在が明確になっていない
- ・ IODP 部会広報の意見・ICDP の立場を尊重する
- ・ 内容が難しい。J-DESC を全く知らない人（青少年）向けに検討したほうがいいのではないかと  
陸上部会広報を含め、再度コンセプトなどの検討が必要とされる。  
AESTO 事務局 - 阿波根部会長補佐 - 木戸部員 - 白井部員 - 浦辺陸上掘削部会長 - 小村陸上掘削部  
会部員で再検討することが決定された。

J-DESC ニュースレターについて

事務局より、資料 6-11 に基づき、ニュースレターの進捗状況について説明があった。

### 【検討事項】

- ・ 内容に学会発表・講演一覧、およびキャンペーン会場公募記事などを追加すること
- ・ 各項目のページ数を増やし、中身を充実させること
- ・ 他言語バージョン(現状では日本語版のみ)

事務局からの要請事項

- ・ IODP / SAS 委員会・パネル会議の速報提出（帰国後 1 週間以内に事務局へ）
- ・ 専門部会および WG の議事録案 / 議事録の提出（2 週間以内に事務局へ）
- ・ メール会議やメール検討・確認などの依頼に対する回答期日については  
期日遵守が要請された。